

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
経営協議会（第51回）議事要旨

1. 日 時 平成29年6月23日（金）10：45～12：50
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、高坂委員、斎藤委員、澤岡委員、庄山委員、高橋委員、高柳委員、中村委員、平野委員、結城委員、徳田委員、金子委員、林委員、山本委員、川合委員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事、核融合科学研究所 室賀副所長、生理学研究所 定籐共同研究担当主幹
(事務担当者)
植垣総務課長、高田企画連携課長、布野財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合事務センター 棚木センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
村越 秀治 准教授（生理学研究所）
4. 配付資料
 - 1 経営協議会（第50回）議事要旨（案）
 - 2-1 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
 - 2-2 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
 - 2-3 中期目標の達成状況に関する評価結果
 - 2-4 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果
 - 2-5 国立大学法人・大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価について（委員長所見）
 - 2-6 国立大学法人・大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果（概要）
 - 3 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書
 - 4-1 平成28事業年度決算（案）のポイント
 - 4-2 財務諸表（案）
 - 4-3 事業報告書（案）
 - 4-4 決算報告書（案）
 - 4-5 監事監査報告
 - 4-6 独立監査人の監査報告書
 - 5-1 平成30年度概算要求機能強化経費事項一覧（案）
 - 5-2 平成30年度国立大学法人運営費交付金等の重点支援に係る概算要求の方向性について
 - 6 平成30年度施設整備費概算要求一覧（案）
 - 7 大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について（通知）
 - 8 第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について
 - 9 自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス懇談会について

5. 議事等

議事に先立ち、小森議長から委員の交代について報告があり、引き続き、事務局から定足数及び配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回経営協議会（第50回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について

金子委員から、資料2-1から資料2-6に基づき、第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があった。

（主な意見等は以下のとおり）

- 資料2-2中に「暗黒物質（ダークマター）が集中する領域の探査を実施している」とあるが、「実施している」だけでは目新しい部分がないと思うが、どういう点が優れているのか。
- 探査が実施できるのは、すばる望遠鏡しかない。すばる望遠鏡は、宇宙の果てまでの銀河を捉えることができ、それを分析することにより宇宙の果てまでのダークマターの分布を捉えることができる。
- 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果について、核融合研の評価が相対的に低いが、どのような理由があるのか。
- このような評価結果については、非常に不満である。核融合研究全体の中で核融合研がどのような位置で研究し、世界をリードしているのかなど、委員に対してアピール不足が原因であったと考えている。
- この評価結果について、予算にどのように反映されるのか。
- 第1期は、評価結果に基づく予算配分があり、本機構が大学共同利用機関法人の中で一番評価が良かったので、他機構より多くの予算をいただいていた。第2期について、これに対応する予算配分があるかどうかは、現状ではわからない。
- 核融合研の評価結果について、ヘリカルとトカマク方式の両方を実施していくだけの予算がないので、先を見て低い評価にされているのではないか。
- そのようなことはなく、ヘリカルでは重水素実験を開始し、1億度を超えた温度を出しており、定常炉としては非常に有利で将来的に有望であると考えている。

3) 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金子委員から、資料3に基づき、平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 機構は国際化を非常に進められているが、国全体とすると専門的に海外と十分交渉できる体制が少ないと感じている。
- 本機構では、海外駐在型のURAとして、現在、欧州と米国に1名ずつ派遣

している。このような方々が中心となって海外との交渉を行っていく体制としている。

- アストロバイオロジーセンターについて、機構内の生物関係の研究者はどのように関わっていくのか。
- 生物学に近い組織として、宇宙における生命の起源や進化を研究する宇宙生命探査プロジェクト室を整備した。
- 現在、光合成の研究を専門とした特任准教授1名が研究を開始しており、平成30年度からは基礎生物学研究所から2名の助教を異動させる予定である。
- クロスアポイントメントについて、省庁間や機関間の壁や退職手当の問題など高いハードルがあるが、機構はどのように取り組んでいるか。
- 海外の研究者については、年間を通じてクロスアポイントメントにより雇用するのは難しいので、期間を区切った雇用となっている。また、民間企業の研究者とは、Win-Win の関係をどう構築するかが重要だと考えている。

4) 平成28年度決算について

事務局から、資料4-1から資料4-6に基づき、平成28年度決算について説明があり、審議の結果、案(資料4-1から資料4-6)のとおり了承された。

5) 平成30年度概算要求について

事務局から、資料5-1及び資料5-2に基づき、平成30年度概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料5-1及び資料5-2)のとおり了承された。

6) 平成30年度施設整備費補助金概算要求について

事務局から、資料6に基づき、平成30年度施設整備費補助金概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料6)のとおり了承された。

7) 平成29年度会計監査人の選任について

事務局から、資料7に基づき、平成29年度会計監査人の選任について報告があった。

8) 第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について

山本委員から、資料8に基づき、第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について報告があった。

9) 自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス懇談会について

小森議長から、資料9に基づき、自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス懇談会について報告があった。

10) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、生理学研究所の村越 秀治 准教授から「蛍光寿命イメージング顕微鏡で記憶を見る」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上